

人、音楽、自然——日本フィルのテーマです。

JAPAN
PHILHARMONIC
ORCHESTRA

—— 創立指揮者 渡邊暁雄 ——

日本フィルハーモニー交響楽団 こんな活動をしています (2017年度活動報告)

Triptyque
[トリプティック]

Vol.13

2017年度活動の概要

ご挨拶

日本フィルは、創立60周年の節目となった2016年6月、首席指揮者としてピエタリ・インキネンを迎えました。2017年5月末までの14か月間にかけた行った60周年記念事業が完結し、同時に日本フィルの演奏・音楽活動を新たなステージに進めるスタートの年となりました。

記念事業のフィナーレ公演となったインキネン指揮による楽劇《ラインの黄金》が高い成果を上げるなど、より芸術の高みを目指した活動を推進いたしました。

また60周年を期に、**(1)日本フィルは面白いー芸術性の追求と社会性の拡充****(2)芸術家を大切にー財政強化、処遇改善**を経営の二大目標と掲げ、今年も継続しています。日本フィルが長い歴史の中で得た“人の心”の温かさを感じ、“人と寄り添う”ことの大切さを伝える楽団という特有のカラーを発揮し、音楽を通じた社会発信に工夫を凝らす年となりました。

日本フィルは、「あたたかな心の交流」「オーケストラの奥深い面白さをお伝えする」ことを目的に掲げるとともに、これからの社会で果たすべき役割を見すえ、コン

サートの他、教育、地域貢献、被災地訪問などの活動を積極的に行い、音楽の力がどうコミュニティに役立つかなどを問いかけてまいりました。この活動をあらゆる人々へ、世代へ、地域へ、そして世界へと広げて行きたいと考えています。2018年11月には7年ぶりのアジア公演となる韓国公演(2公演)、そして2019年春には13年ぶりのヨーロッパ公演(10公演)を企画しています。その中では日本フィルとゆかりの深いフィンランドへの初公演も計画しており、この目標に果敢に取り組んでまいりたいと思っています。

どうぞこれからも、演奏に音楽活動に、芸術性・社会性で挑戦する日本フィルに対し変わらぬお力添えを頂き、大きく育てていただくようお願い申し上げます。

公益財団法人
日本フィルハーモニー交響楽団

理事長

中井俊邦



【公益的活動の推進と経営目標】

日本フィルハーモニー交響楽団は三本柱の活動(オーケストラ・コンサート、エデュケーション・プログラム、リージョナル・アクティビティ)に加え「被災地に音楽を」を活動の柱としています。創立60周年を期に、2017年度は「温かな心の交流」をモットーにこれらの活動をより積極的に展開し、大きな成果を挙げることができました。「被災地に音楽を」の活動も被災地の状況変化により、新たな局面を迎えています。

事業面では音楽の芸術性と社会性を追求する「日本フィルは面白い」と題する取り組み、また経営面では「芸術家を大切に」として財政基盤強化に引き続き取り組みました。

(1)日本フィルは面白いー芸術性と社会性

《奥深い面白さの追求》

活動の中核であるオーケストラ・コンサートは、新首席指揮者とともに、新たなステージへ向かっています。

桂冠指揮者兼芸術顧問に就任した前首席指揮者・ラザレフとは、これまで獲得した芸術的成果の維持につとめるとともに、新首席指揮者・インキネンとは「深く重い音色」の獲得、自発的なサウンド作りを目指しました。小林研一郎、山田和樹、西本智実という充実した指揮者陣とはそれぞれ個性あふれる演奏を展開、芸術性の更なる追求とオーケストラの個性の確立に努めました。

2017年度はとりわけ東京定期演奏会での邦人作品の紹介(指揮:山田和樹、下野竜也)やインキネンによるワーグナー・プログラムなど、プログラミングの面でも高い評価を集め、オーケストラの根幹をなす事業で楽団の存在感を発揮できました。同時に聴き手の皆様にも、高い芸術性を持ったプロフェッショナルとしての楽団ならではの働きかけをより強め、クラシック音楽の持つ奥の深い面白さを存分に味わっていただけるよう工夫を凝らしました。

《社会性の拡充》

また日本フィルは、音楽の専門集団としての持てる力で社会に果たす役割の拡大を目標に掲げています。日本フィルの持つ「温かさ」を発揮し、あらゆる人へのオーケストラ・コンサートへのアクセスの拡大に努めています。また、「日本フィルは面白い」をスローガンとして、聴き手のみならず広く社会へ、知れば知るほどわくわくする知的探究心で音楽を楽しんでいただけるよう、芸術性と社会性を両軸に、邦人作品やワーグナー・プログラムの関連企画としてワークショップを開催、それらの取り組みは少しずつ注目を集めています。

他に例を見ない日本フィルの幅広い活動を「音楽の森」部署の楽団全体にかかる取り組みとして収斂させ、エデュケーション・プログラム、リージョナル・アクティビティを一体化しました。そして発信力を高め、音楽が社会に対しできることをより強固に打ち出すことで、「音楽を通して心の温もりを体感する」コミュニケーションの場として、日本フィルがより一層機能するように努めました。

(2)芸術家を大切にー財政強化、処遇改善

創立60周年のフィナーレを迎えた2017年度は、単年度の業績は黒字となったものの、課題を残す内容となりました。

収入は受託事業の増加が寄与したものの、事業経費も相応に増加、一方主催公演では予算を達成することが出来ませんでした。加えて法人寄付も伸び悩み最終損益を大きく伸ばすことはできませんでした。財政基盤強化の長期課題に対しては着実に正味財産を積み安定した経営を目指しています。

社会への一層の貢献に努める目標をより良く果たせるよう、今後も財政基盤の維持、改善に努めます。引き続き皆様のお力添えをよろしくお願い申し上げます。

Data 2017年度活動回数一覧

	主催	受託(共催含む)	計
オーケストラ公演	77	75	152
室内楽公演(*「被災地に音楽を」)			268(*17)

Data 2017年度経営報告

1.貸借対照表

(2018年3月末現在、単位:千円)

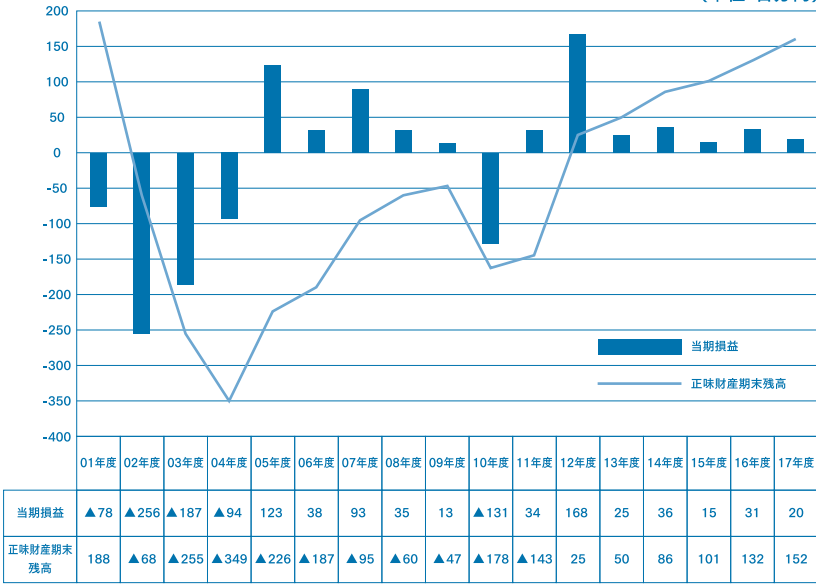
科 目	金 額
I.資産の部	
1.流動資産	294,201
2.固定資産	166,444
資産合計	460,645
II.負債の部	
1.流動負債	222,195
2.固定負債	86,827
負債合計	309,022
III.正味財産の部	
正味財産合計	151,622
負債及び正味財産合計	460,645

2.正味財産増減計算書

科 目	金 額
経常収益	1,439,077
経常費用	1,416,501
経常外収益等	▲ 2,897
当期正味資産増	19,678

3.当期損益/正味財産期末残高

(単位:百万円)



オーケストラ・コンサート ― 60周年のその先へ

演奏に高い評価を頂くまでになった日本フィルは、その成果をさらに広げ、日本フィルならではの唯一無二なサウンドづくりと「あたたかさ」を届け、聴き手の輪を大きく広げています。



首席指揮者
ピエタリ・インキネン
©堀田 力丸



桂冠指揮者 兼 芸術顧問
アレクサンドル・ラザレフ
©山口 敦



桂冠名誉指揮者
小林 研一郎
©山口 敦



正指揮者
山田 和樹
©山口 敦



ミュージック・パートナー
西本 智実
©塩澤 秀樹

【創立60周年記念事業】

2017年度は「創立60周年記念事業」のフィナーレとなる公演を開催、出演しました。

4月には「がん患者さんが歌う春の第九」(受託公演)に正指揮者山田和樹の指揮で出演。音楽の高みを目指してオーケストラと合唱団が1年にわたりともに歩んだリハーサルを経て、たいへん質の高い公演を創り上げることができました。

そして5月の東京定期演奏会は60周年記念事業ファイナル公演として「<ワグナーの深き森へー「ラインの黄金」全曲(字幕つき)>」(第690回東京定期演奏会)を演奏。首席指揮者ピエタリ・インキネンとのワグナーの楽劇への大きなチャレンジは、「オペラに縁遠かった楽団の大健闘を大いに

【主な主催公演】

《東京定期演奏会》

日本フィルが誇る指揮者陣を中心に国内外の優れたアーティストを招き、企画・演奏の両面において、先駆的かつ上質な公演を提供することを目的としています。首席指揮者インキネンとのドイツ・ロマン派作品、桂冠指揮兼芸術顧問アレクサンドル・ラザレフとはロシア作品、正指揮者山田和樹との日本&フランス作品、といった各指揮者との個性を大切にすることで、バラエティあるレパートリーと「聴き比べ」のできる楽しみ方を目指しています。

2017年度はこれまで日本フィルが取り組んでこなかったワグナーのオペラ作品全曲演奏や、創立以来の伝統とも言える現代作品の演奏にも積極的に取り組みました。楽団創立60周年を経た今、新たなレパートリーの拡大に踏み出し、また多様なプログラムをお届けすることで聴き手の知的好奇心を刺激することに努めています。

《横浜定期演奏会》

華やかなロケーションが魅力の横浜みなとみらいホールを舞台に、古今の名曲をラインナップしクラシック音楽の楽しみを広め、新たな聴衆層拡大を意図して企画・制作しています。2017年度は全10公演中9公演が日本フィル指揮者陣で占められました。インキネン(4,5,11月)、ラザレフ(6,10月)、小

讃えたい」(読売新聞、船木篤也)「生彩は豊か。オーケストラも最後まで高い安定度を維持した」(モーストリー・クラシック、山崎浩太郎)等、演奏内容、企画意図、楽団の方針といった各面で高い評価を得ることができました。

また4月の「炎のマエストロ、77歳の軌跡! Birthday Concert」は桂冠名誉指揮者小林研一郎の喜寿を記念する特別演奏会。天皇皇后両陛下にご臨席頂く名誉を得ました。

これらの事業を通して、60年の芸術的成果を聴き手の皆様と分かち合い、社会との繋がりをさらに強く感じる事ができたと実感しています。

林研一郎(9,12月)、山田和樹(1月)、またミュージック・パートナー西本智実(7月)といったラインナップは、現在の指揮者陣が人気・実力ともに充実している証とも言えるでしょう。安定した定期会員数を保持し、クラシック音楽のエントリークラスおよびミドルクラス向け企画としての役割を担いつつ話題性も盛り込みました。レナード・バーンスタイン生誕100年を記念するプログラムは、指揮の山田和樹と世界を舞台に活躍するジャズ・ピアニスト小曽根真の名演によって、聴き手の心に深く刻まれたと感じています。

※コンサートを深く楽しんでいただく取り組み

東京定期演奏会(土曜)のプレトークでは、開演50分前の開始にも関わらず毎回多くの参加者数を誇っており、関心の高さがうかがえます。また、ライトモチーフが聴けるアプリのQRコードを配したチラシの配布、参加型ワークショップやレクチャーの開催等で、「オーケストラを身近に」感じる等の工夫も行い、公演を通して社会性の拡充にも一定の成果を挙げることが出来ました。

横浜定期演奏会ではオーケストラ・ガイドや、7月と1月にロビーで開催される「シーズン・ファイナル・パーティ」などを通じて、狭い枠に収まりがちなクラシック音楽をもっと開かれたものとして楽しんでもらえるよう日々努力しています。

【その他の主催演奏会】

幅広い層の来場とクラシック音楽の普及を目指し多くの事業を実施しています。

チケット確保が困難なほどの人気を博す、桂冠名誉指揮者小林研一郎との「コバケン・ワールド」が今年も3回行われました。千住真理子、徳永二男、森麻季といった名ソリス

【主催以外の演奏会】

2017年度は、とりわけ受託演奏会が活発でした。長年継続している主要なシリーズとして、友好提携を続けている杉並区、および杉並公会堂との共催による「杉並公会堂シリーズ」など区内各公演、「さいたま定期演奏会」(埼玉県)、「どりーむコンサート」シリーズ(府中市)、「相模原定期演奏会」(相模原市)に継続的に出演・開催しました。

また、3年間の大プロジェクトであった「山田和樹 マー

ラー・ツィクルス」が今年度最終章を迎え、交響曲第7番から9番までという大作への集中的な取り組みで、改めて作品の底力を確認し、追加公演の実施など大きな反響でプロジェクトを締めくくりました。

このほか、学校公演、文化庁主催「文化芸術による子供の育成事業(巡回公演事業)」、企業主催による公演などにも引き続き出演しました。

Data 2017年度オーケストラ公演の内訳

主催公演	公演数	入場者数(約)
東京定期演奏会	20	30,000
横浜定期演奏会	10	17,000
名曲コンサート	1	1,300
サンデーコンサート	3	3,100
特別演奏会	4	5,500
コバケン・ワールド	3	5,500
その他	2	2,100
夏休みコンサート	18	23,000
「第九」特別演奏会	6	10,000
九州公演	10	11,000
計	77	108,500

受託公演	公演数
一般公演(共催含む)	45
音楽教室/学校公演	24
録音	4
放送	2
計	75

演奏会評・演奏会レポート

2017年5月20日 横浜みなとみらいホール インキネン指揮日本フィル

(前略)ブラームス・ツィクルスの第3回を聴く。1980年フィンランド生まれのインキネンは8年前から首席客演指揮者として共演を重ねており、意思疎通は十分。その強みは随所に感じる事ができた。(中略)ブラームスの第1番。ここでもインキネンは過度に劇的な表現を避け、明快な運びで音楽を進める。(中略)インキネンが求める、純度が高く澄んだ、奥行きのある響きはたしかに浸透してきている、さらに加えて、しなやかにのたうつ、一本の線のように途切れることのない動きを弦楽パートが達成できたとき、音楽はさらなる生命力を獲得するだろう。

(山崎 浩太郎 2017年6月6日 日本経済新聞 演奏会評より 転載)

2017年6月25日 オーチャードホール 山田和樹&日本フィル マラー・ツィクルス(最終回)

2年前の1月から展開されて来た山田和樹指揮によるマーラーの番号付交響曲ツィクルスも、ついに完結を迎えた。それと組み合わせる毎回1曲ずつ取り上げて来た武満徹の作品とともに、出来栄に多少のムラもなくはなかったとはいえ、若い山田なりの感性でまとめ上げたこれらの演奏は、彼の輝かしい里程標として大きな意味を持つことになるだろう。特にこの日の「9番」は、山田和樹のこれまでのマーラー演奏と同様に明快な構築であり、沈潜した箇所においてさえあまり陰鬱な翳りを滲ませるものではない。(中略)。日本フィルもツィクルス最後を飾るにふさわしい渾身の力演。チェロのセクションが特に映えていた。

(東条 碩夫 音楽の友8月号 Concert Reviewsより 転載)

【室内楽】

日本フィルは室内楽でも多岐にわたる主催者から機会を頂き、積極的に事業展開しています。企業からの継続的な依頼も多く、2017年度も武州ガス、フコク生命、ネイチャーズウェイ等から地域貢献活動としての演奏機会を頂きました。また地域団体や市民の活動(「市民コンサート」)、自治体、

ホール、民間の文化的拠点での活動など、室内楽を通して多くの方々とつながっています。オーケストラ・コンサート同様、質の高さ、プログラムの充実にも努め、新たなプログラムも続々と開発しています。

エデュケーション・プログラム ―― 音楽の面白さをさらに広く、深く

「オーケストラの面白さと感動を、より多くの人に」をモットーに音楽の楽しみ方を深め、広げる活動を2017年度も積極的に行いました。

エデュケーション・プログラムは、日本フィルのすべての事業活動を広め、深め、日本フィルと社会との接点となる活動と考えています。日本フィルの根幹をなす活動であり、オーケストラ・コンサートなどの事業との関連性を深める体制の構築に努めました。

「エデュケーション・プログラムの第一人者」と称されるマイケル・スペンサーをコミュニケーション・ディレクターに迎えて4年目となり、活動はますます拡大しています。とりわけ次世代の聴衆を育成し、広く社会と接点を持つ活動を展開するためには長期的視野での活動が必要と考えます。そのためにも地域（拠点ホール、地方自治体、学校、企業など）や

事業パートナーとの関係を深め、更に多くの協働活動を推進したいと考え、その土台作りにも努めました。



マイケル・スペンサー（日本フィル コミュニケーション・ディレクター）
アーキヒルズ音楽週間「おんがくたんけん団」

主な取り組み

オーケストラによるエデュケーション

【夏休みコンサート】

「初めてクラシックを聴く子供たちに、家族と一緒に、本物のオーケストラを聴いていただきたい」と願い続けてきた夏休みコンサートは、2017年に43年目を迎えました。2017年度は、一都三県で17回、京都で1回、依頼公演も1回出演し、計19公演を行いました。

チャイコフスキーの《白鳥の湖》のバレエ版と、ビゼーの《カルメン》のオペラ版という2パターン第2部プログラムを実施。例年同様、開演前には「ウェルカム・コンサート」、終演後はロビーでの懇談会を行い、子供たちとアーティストが直接交流する微笑ましい機会となりました。



夏休みコンサート2017第2部、バレエ《白鳥の湖》
スターダンサーズ・バレエ団



終演後の懇談会



第2部 オペラ《カルメン》
城 宏憲、塩田 美奈子、与那城 敬



絵画コンテスト

【春休みオーケストラ探検】（エデュケーション フェスティバル in 杉並 2018）

日本フィルと杉並公会堂の共催で継続開催する《春休みオーケストラ探検》の第11回も、悪天候に関わらず午前の部・午後の部ともたいへん盛り上がりしました。

内容はオーケストラ公演を核に、音大生のインストラクターによる楽器体験（ヴァイオリン他8楽器、協力：東京音楽大学）、各楽器のソロを聴ける1人15分間のリレーコンサート、大声大会、公会堂ホール探検やスタンプラリー、絵本の読み聞かせやサプライズライブなど、0才からの子供と家族が一緒に楽しめる複合イベントです。コンサートのテーマは「ようこそ！日本フィルレストランへ」とし、コースメニューにたとえた

“前菜”“副菜”、モーツァルトかベートーヴェンかを選ぶ“メイン・ディッシュ”“デザート”など7曲を演奏しました。永峰大輔（指揮）、ゲストの山口とも（がらくた楽器奏者）が、特徴ある選曲と江原陽子の司会で客席を盛り上げ、あらゆる方々にフル・オーケストラのサウンドを味わっていただきました。また、ロビーでの工作ワークショップ（協力：女子美術大学）で作った紙皿のカスタネットを曲に取り入れる工夫も凝らしました。

ホールや80名ものボランティアと連携するこの全年齢向け・体験型コンサートを、関わる方々との共有財産として大切に育ててまいります。



楽器体験



ようこそ！日本フィルレストランへ



工作ワークショップ

室内楽などによるエデュケーション&その他のチャレンジ

杉並を始め地域の小中学校、施設等へ少人数で訪問する出張コンサートのほか、杉並区立天沼小学校での音楽ワークショップや女子美術大学アート・デザイン表現学科ヒーリング表現領域との継続した取り組みなど、学校との深いかかわりも生まれています。

また2017年度は新規事業として、5月にローム株式会社協賛・ローム ミュージックファンデーション助成「小学生からのクラシック・コンサート」を実施、京都でも子供とのふれあいが増えています。

杉並区で行う「60歳からの楽器教室」、音楽の奥深い面白さを知る「オケのテイキは面白い」と題するワークショップ、4年目と



小学生からのクラシック・コンサート

なったアーキヒルズ音楽週間への出演などの地域とのかかわり、高千穂大学哲学研究会パイディアとの協働によるワークショップ「哲楽を奏でる」など、これまでの繋がりが新たな事業へと広がり、発展した年となりました。また今年度も森美術館との協働により、定期演奏会のプログラムと現代アートを橋渡しする意欲的なワークショップをマイケル・スペンサーとともに継続し、音楽とアートの斬新な試みとして注目を浴びました。

Data 2017年度エデュケーション・プログラム、その他の内訳

夏休みコンサート(主催)	18回	インターンシップ	参加 15名
オーケストラ探検	2回	プレイベント	53回
学校・施設訪問コンサート	69回	アフターイベント(楽員との懇談等)	14回
オーケストラたんけん隊	7回	プレトーク(オーケストラ・ガイド等)	33回
公開リハーサル	9回	ワークショップ	11回
職場訪問	9回	クリニック	7回
60歳からの楽器教室	96回		

リージョナル・アクティビティ ―― 音楽を通じた心の交流

日本フィルは地域における活動を大切にしています。60年の長きにわたり培ってきた人々との交流から、「人の心の温かさがわかる楽団」という日本フィルの個性が醸成され、人々が日本フィルを育んでくださることを私たちは実感してきました。音楽を通じた心の交流をますます活性化させるための取り組みを、2017年度も活発に行いました。

主な取り組み

【杉並区との連携】

1994年に結んだ東京都杉並区との友好提携、また2006年開館の杉並公会堂との強い協力により、杉並区・杉並公会堂・杉並区民の皆様とは日本フィルの活動の3本柱すべてにおいて連携を深めてきました。

開館から11年を数えるフランチイズ・ホール杉並公会堂とは、これまでどおり「杉並公会堂シリーズ(年6回)」ならびに「夏休みコンサート(受託)」を開催、出演しました。また共催で《春休みオーケストラ探検(エデュケーション・フェスティバルin杉並)》の開催も継続し、コンサートホールを軸とした総合的な教育プログラムとして今年も成功裏に終えることができました。今後も杉並区民にクラシックの裾野を広げ、楽団の魅力を区民に伝える機会と位置づけ、連携の力による内容のより一層の充実を図りたいと考えています。

また今年度は、杉並区役所の主催により区役所庁舎内での写真展「オーケストラの響く街」を開催し、日本フィルの活動を区民に周知する活動を行ったほか、昨年度より継続して杉並区の高齢者に向けた事業「杉並区敬老会」に室内楽編成で出演し、好評を博しました。

このほか、小中学校や区内施設での出張音楽教室・出張コンサート、区民へのリハーサル公開、区役所ロビーコンサートなど、区との友好提携に基づく事業を推進しました。

Data 杉並区との友好提携に基づく活動回数

杉並公会堂シリーズ [杉並区との友好提携による公演]*	4
区役所ロビーコンサート	4
公開リハーサル	4
出張音楽教室	10
公募出張コンサート	4
区施設出張コンサート	11
小中学校音楽鑑賞教室(オーケストラ)	7
区内ホール等のリハーサル使用	71

*夏休みコンサート含む

Data その他杉並区での活動回数

春休みオーケストラ探検	2
杉並公会堂シリーズ [杉並公会堂(京王設備サービス)・日本フィル共催公演]	3
60歳からの楽器教室	96



写真展「オーケストラの響く街」



杉並出張コンサート

【九州公演】

43年目を迎える九州公演は2018年2月9日より同21日までの期間、九州全7県で10公演を行いました。指揮は10年ぶりの九州ツアー出演となる井上道義氏。ソリストにはヴァイオリンの山根一仁、ピアノの反田恭平の両氏と、いずれも話題の若手2人を迎えました。

井上氏は今回が通算4回目の九州公演参加で、九州公演の歴史を肌で知る指揮者の一人です。九州への深い思い入れのもと、マーラーとベートーヴェンのシンフォニーをメインに選び、彼ならではのこだわりが随所に生きた演奏となり、チャレンジングな選曲を受け止めた実行委員の皆さんとともに熱い公演を繰り広げました。高い人気を誇る若手ソリスト2名を起用し、全国からお客様にご来場いただき大いに賑わいました。

自主参加の市民による実行委員会がボランティアで、日本フィルとともに1年を通し公演の制作・運営を行うという、世界

でも類を見ない運営スタイルで43年にわたり継続してきた九州公演は、2013年度より文化庁「劇場・音楽堂等活性化事業(劇場・音楽堂等間ネットワーク構築支援事業)」に採択されるなど注目を集めています。日本フィルの「リージョナル・アクティビティ」の大きな幹の一本であり、また実行委員の方々は長年、公演の開催を通して日本フィルを支えてきた存在です。しかし地域によっては公立劇場等が主催する公演の増加や価格競争にさらされ競合が激化し、また人口減、過疎化等の社会課題にも向き合う必要に迫られています。実行委員と共に未来の九州公演のあるべき姿を、2017年度も真剣に考えながら、音楽で絆を繋ぎました。



指揮：井上 道義



ヴァイオリン：山根 一仁



ピアノ：反田 恭平

【宇部公演】

宇部興産株式会社の地域貢献活動として開始された「宇部興産チャリティコンサート」は2017年度、2回目の登場となる藤岡幸夫氏の指揮、ロシアンプログラムにより記念すべき10回目を数えました。今年度もオーケストラ・コンサートの提供はもちろんのこと、病院への訪問コンサート、中学生対象のクリニックや合同演奏会、小学生へのリハーサル公開、さらには地元FM局による公演の市内生中継等の実施など、幅広い事業を継続的に行いました。音楽を通じた地域貢献活動として日本フィルの3本柱の活動がすべて発揮される本公演を、今後も引き続き企業・自治体と一体となって積極的に展開してまいります。



ふれあいコンサート(病院訪問コンサート)

【その他の地域】

2017年度も、ローム株式会社協賛・ロームミュージックファンデーションの助成によりロームシアター京都での主催公演をオーケストラ1公演(「夏休みコンサート」)、室内楽1公演開催しました。また、みちのく銀行主催により、9年ぶりとなる青

森公演も実現しました。ホールとの共催で定期演奏会を行っている埼玉県、相模原市とは、定期演奏会以外にも地域活動に協力しています。

「被災地に音楽を」(被災地におけるリージョナル・アクティビティ)

東日本大震災から7年が経過し、被災地の状況は刻一刻と変化しており、「被災地に音楽を」の事業もそれに合わせていく必要に迫られています。

2017年度は継続的活動の一部が文化庁の委託事業(戦略的芸術文化創造推進事業)として初めて採択され、被災地での活動と、震災直後から現在に至るまでの被災地の状況やこの活動についての期待や効果がどのように変化しているかを第三者による調査・研究を通じて把握しました。その結果を踏まえ、現時点で被災地が求めていることを、より効果的で持続可能なものとなるよう、活動対象や地域、目的により実施内容を多様化させ、その効果を検証していくこととしました。特に地元の伝統芸能などの文化財の活用、参加型・対話型プログラムの開発により、鑑賞者により深い体験を提供するように努めています。

各地での主な活動報告

① 音楽ワークショップ「武士道と騎士道」

《2017年10月14～15日 福島県南相馬市 南相馬市博物館》

福島県相双地区には、武士の伝統を伝える壮大なお祭り「相馬野馬追」があり、南相馬市博物館はその文化を伝えています。震災後6年半が経過し、現地では子供たちの自主性やコミュニケーション力の醸成が求められています。これらを目的として、日本フィルのコミュニケーション・ディレクターのマイケル・スペンサーによる音楽ワークショップを開催しました。

<1日目> 対象:南相馬市立原町第一中学校の生徒

R.シュトラウスの《ドン・キホーテ》の主題を元にした音楽づくりを4グループに分かれておこないました。生徒たちはグループワークの中でそれぞれの意見を出し合い、マイケル・スペンサーと楽団員のファシリテーターの導きで、それらをまとめあげて驚くような素晴らしい音楽を作り上げていきました。各グループが作った音楽を繋ぎあわせ、最後はマイク氏と楽団員の演奏でフィナーレとなりました。



<2日目> 対象:地域の伝統を伝えようとする高校生とそれを支援するNPOの大人たち

震災以降、地域の活性化のために「サムライフェス」という行事を開催し、地域の伝統を伝えようとしている高校生たちと、それを応援するNPOの大人たちを対象としてワークショップを行いました。この日は高校生と大人がコミュニケーションを取りながら、消防団のラッパや宮司さんの法螺貝まで登場し、ここでしかできない音楽ができあがりました。



② 復興住宅でのコンサートと懇談会

《2017年11月28日 福島県三春町 葛尾村復興公営住宅集会所》

三春町恵下越に建設された葛尾村復興公営住宅は、隣接の葛尾村等からの避難者のために建設されました。原発事故避難者を対象としたコンサートは、これまでに多くの地域で開催してきましたが、震災から7年目においても、依然として様々な課題が存在すると聞きます。

今回のコンサートでは気持ちが落ち着くクラシック曲や、来場者のニーズに合わせた歌謡曲まで、多彩な曲目を演奏しました。

コンサート終了後は、来場者と楽団員との懇談会の時間を設け、今の居住環境や生活状況など、多くのお話を伺うことができました。



③ 「動物の謝肉祭」コンサートとお面作りワークショップ

《2017年12月12日 岩手県宮古市民文化会館》

<昼の部> 対象:宮古市内の小学校児童

サン＝サーンス「動物の謝肉祭」はこれまで何回も上演してきましたが、昼の部では宮古市全域の小学校16校の1、2年生930人を対象にしたプログラムを新たに制作。楽しいお話や画像、大きなジェスチャーも使って、元気な低学年を最後まで飽きさせることなく、サン＝サーンスの音楽を紹介しました。



<お面作りワークショップ> 対象:学童保育に通う小学生

夜の部のコンサートでは、「動物の謝肉祭」の演奏中に子供たちが作ったお面をかぶって行進するコーナーを設けました。ともに被災地支援を行っている女子美術大学の卒業生が中心となりお面作りワークショップを実施。集まった子供たちは、会話とコミュニケーションを楽しみながら思い思いのお面を創作しました。



<夜の部> 対象:0歳からの会場周辺にお住まいの方々

夜の部のコンサートは0歳から入場していただけるようにした結果、親子3世代で聴きにこられたご家族が数多くおられました。プログラムはアンサンブルによる演奏から始まり、おもちゃの楽器を使った楽しい演奏、ピアノの連弾、そしてサン＝サーンスの「動物の謝肉祭」では、ナレーションと女子美術大学制作の挿し絵がコンサートを盛り上げました。1時間半のコンサートを終え、帰宅する親子のたくさんの笑顔を見ることができました。



活動報告会およびシンポジウムの開催

当該年度の実施事業を広く周知する事を目的として、有識者をゲストに招いたシンポジウムを行いました。

パネルディスカッションでは現代アーティストの宮島達男氏、音楽家・音楽教育者であり先進的教育プログラムを日本フィルと開発・実践しているマイケル・スペンサーなどが登壇。芸術分野での行政評価の研究者である太下義之氏がモデレーターを務め、オーケストラの被災地等における新たな役割について旺盛な議論が交わされました。



日本フィル「被災地に音楽を」実施一覧(216回～)

【2011年度～2017年度までの延べ実施回数 232回】

回数	開催日	会場		
	【2017年】			
216	7月1日	福島県	南相馬市	原町第一中学校
217	7月2日			原町高等学校
218	8月10日	宮城県	気仙沼市	向洋高等学校
219				愛耕幼稚園
220	8月11日			リアス・アーク美術館
221	10月14日	福島県	南相馬市	南相馬市博物館
222	10月15日	福島県	南相馬市	南相馬市博物館
223	11月12日	東京都	杉並区	杉並公会堂
224	11月28日	福島県	三春町	葛尾村復興公営住宅集会所

回数	開催日	会場		
225	11月29日	福島県	三春町	三春交流館「まほら」
226	11月30日		葛尾村	葛尾村役場
227	11月30日	宮城県	石巻市	鮎川小学校
228	12月11日	岩手県	宮古市	宮古市総合福祉センター
229	12月11日			崎山貝塚縄文の森ミュージアム
230	12月12日			宮古市民文化会館
231				宮古市民文化会館
232	12月13日			鯉ヶ崎公民館

日本フィルと音楽界全体の 充実ぶりを反映した 「インキネン体制」

船木 篤也(音楽評論)



2017年5月26日と27日の2回。日本フィルハーモニー交響楽団は、ワーグナーの巨大な4部作、舞台祝祭劇《ニーベルングの指環》から、序夜「ラインの黄金」のぜんぶを演奏会形式で上演した。第690回にあたるこの東京定期演奏会は、それまでにじっくりと築き上げてきた「インキネン体制」の、まぎれもない頂点を示すものであった。たんに大作を上演したから、ということではない。演奏の質そのものが、目を瞠るほど高かったのである。

本作の緻密な、シンフォニック・タペストリーとしての管弦楽が、2時間半、いささかも混濁せず、漫然とせず、目前にあった。本作における、いわゆる示導動機は、しばしば複数が同時に層をなしたり、重なり合いつつ入れ替わったりするわけだが、それらおのおのは、固有の時間と表情を持っている。その違いが違いとして、しっかりと表出される必要がある。〈巨人の動機〉〈ローゲの動機〉ほかが交錯する第3場／第4場の舞台転換音楽など、そのあたりがじつに鮮やかで、過去3年間(当時)に本邦で上演されたさまざまな「ラインの黄金」と比べても、一頭地を抜いた演奏であった。

加えて、声楽陣も各人の持ち味を生き生きと発揮(演出:佐藤美晴)。風格あるヴォータン、ユッカ・ラジライネンもさることながら、ことばそのものが持つ律動につねに意を払うフリッカ役のリリ・パーシキヴィ、感情の爆発がすごいアルベリヒ役のワーウィック・ファイフェなど、今も

心に残っている。指揮者の人脈も反映してのことだろうが、こうした面々をよく集めたものだ。

日本フィルはピエタリ・インキネンと2008年に初めて共演した。そして早くもその翌年には、同氏を首席客演指揮者に、2016年には、ついに首席指揮者に迎えた。このフィンランドの俊英から、当初、「お国もの」であるシベリウス作品を求めたのは——同国と深く結びついた故・渡邊暁雄の薫陶を受けた楽団としても——自然なことであつたろう。しかし、インキネン自身の関心は、そこに留



©山口 敦
2016年9月27日 首席指揮者就任披露演奏会
第2夜「ジークフリート」より／第3夜「神々の黄昏」より

まらなかった。ドイツ・ロマン派の作曲家たち、なかんずくワーグナーに対する並々ならぬ熱意について、彼はたびたび公言するようになった。実際、オペラ・オーストラリアでは《ニーベルングの指環》全編を指揮していたし、2013年の秋には、日本フィルとも、同編から第1夜「ワルキューレ」の第1幕を上演、ドラマの高揚を丁寧に築いて、才あるところを見せた。



©浦野 俊之
2013年9月6日、7日 東京定期演奏会 第1夜「ワルキューレ」より第1幕

だから首席指揮者就任を記念する2016年9月の演奏会において、同じく《指環》から第2夜「ジークフリート」と第3夜「神々の黄昏」の抜粋を演奏すると聞いたとき、誰も冒険と感じながらも、成果を大いに期待したものである。独唱者に、「ワルキューレ」を成功に導いたサイモン・オニールが再登場し、加えてオペラ・オーストラリアの《指環》に出演したリーゼ・リンドストロームを迎えるとすれば、なおさらだ。

しかしその結果が、「ワルキューレ」よりも後退しているように見えたのは否定できない。音像がなかなか輪郭を結ばず、整理されない咆哮が続く……。聞けば、リハーサル回数が思うほど取れなかった由。インキネンの指揮には、それまでも時として制御が徹底されず、全体の弛緩するケースがあった。それがかなり露わに出てしまった例とみるが、それだけに、楽団創立60周年を記念する「ラインの黄金」公演に臨んで楽員がリハーサル回数を十分に確保するよう希望したというのは、胸打たれる話ではあるまいか。音楽家集団としての矜持と、指揮者に対する信頼がなければ、そのような行動はあり得なかっただろう。

2017年の「ラインの黄金」は、そうしたプロセスを経た上での結果だったのである。インキネン&日本フィルは、やはり大きな可能性を秘めている——受け手としても、驚きと喜びはひとしおであった。

それにしても、ワーグナー楽劇はもとより、オペラ上演の経験が比較的少ない楽団が、これだけの成果を出し得たのはなぜなのか？

ひとつには、前首席指揮者アレクサンドル・ラザレフの功績が、大きく作用しているのではないか。おそらくは、ラザレフ指導によるプロコフィエフやショスタコーヴィチの演奏を通して、同団は「野卑」の表現にも臆せず挑むようになった。「ラインの黄金」にも、汚れた世界について物語るべく、オーケストラにのみ可能な「美しくない音」が敢えて書き込まれている。不如意による雑然とは違う、意識され、表現された野卑。それが肝要となる劇音楽で成功をみたというのは、それゆえ、一つの当然の成果、帰結であった。

加えてこれはまた、日本の音楽家が、そして聴衆が、多様な演奏経験を、聴取経験を重ねてきた結果とも言えるのではないか。我が国の音楽状況は、ワーグナー上演に接する機会ひとつとっても、20年、30年前とは大きく変わり、増大している。楽観は慎まなければならないが、「環境」によって対象への理解が深まる——耳が学ぶ——ということがあるのではないか。

こうした見かたが当たっているとすれば、2017年の「ラインの黄金」は、一個の楽団と音楽界ぜんたい双方の努力と経験の結実であつたろう。これはなおさら喜ばしい事態であり、現首席指揮者インキネンは、そうした僥倖に浴し、彼自身の才覚を存分に発揮することができたわけである。そして、首席指揮者の座を2021年まで契約更新した今、さらにそれを発揮してゆくチャンスを得た。2019年には、日本フィルを率いていよいよ故国フィンランドをふくむ欧州諸国を回る。今後どのようなレパートリーに取り組むにせよ、より良い成果を生んでゆくだろうと信じている。



©山口 敦
2017年5月26日、27日 東京定期演奏会 序夜「ラインの黄金」



1 サントリーホール休館のため、オーチャードホールで初めての東京定期演奏会。コントラバスの位置について意見を交わす高山とインキネン氏。（2017年4月）



3 オーボエの松岡に言い寄るラザレフ氏。（2017年6月）

2 インキネン氏によるワーグナーの《ラインの黄金》のゲネプロ風景です。向こうに見える6本のハープは壮観です。（2017年5月）



4 マーラー・ツィクルス最終回。第9番のボーイングを打ち合わせる山田和樹氏と扇谷。（2017年6月）



5 7月東京定期演奏会。すばらしい左手のための協奏曲を披露したジャン＝エフラム・バヴゼさんと広上淳一氏。（2017年7月）



6 全19公演の夏休みコンサート全てのタクトを振った梅田俊明氏も加わり、江原陽子さんの進行での懇談会です。（2017年7月）



7 9月コパケン・ワールドでのソリスト千住真理子さんと小林マエストロ。（2017年9月）



8 2016年の震災で学び舎が使えず、廃校になっている小学校に移っての学校生活を強いられている阿蘇西小学校で公演してきました。とても元気な子供たちでした。（2017年10月）



9 12月東京定期に登場した井上道義氏。共演した渡邊康雄氏に演奏以外の様々なパフォーマンスを要求していました。田野倉ゲスト・コンマスと。（2017年12月）



10 1月横浜定期。交響曲なのにまさにピアノ協奏曲でした。ソロは小曽根真氏。リハ終了後の笑顔です。山田和樹氏とともに。（2018年1月）



11 九州公演の指揮は井上道義氏。ピアノの反田恭平氏とヴァイオリンの山根一仁氏という若いソリスト陣です。（2018年2月）



12 3月東京定期で迫真の演奏を披露したルイジ・ピオヴァノ氏のチェロに聞き入る下野・扇谷両氏。（2018年3月）

ご支援

大きなスポンサーを持たない日本フィルは、毎年経費節減をしながら運営を続けています。また、充分ではない楽団員の処遇を、今後改善していく必要があります。しかしながら、楽団員の意識は極めて高く、オーケストラ公演では毎回高いレベルの演奏をお届けしながら、教育活動、地域活動にも注力しています。東日本大震災発生直後から継続している「被災地に音楽を」の活動についても、2018年3月末までに232回の演奏等を被災地にお届けしました。このような活動を継続、拡大するために自助努力を続ける一方で、安定的なサポートシステムを構築する必要があります。2017年度については、法人寄付、協賛、個人寄付において多大なご支援をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

首席指揮者ピエタリ・インキネンとの契約を2019年9月から2年間更新することを先日発表いたしました。楽団員一同さらに大きな飛躍を目指し、2019年4月の13年ぶりとなるヨーロッパ公演に向け準備を進めております。これまで以上の皆様からの力強いご支援を心よりお願い申し上げます。

<個人ご支援>

個人の皆様からは、パトロネージュ(個人寄付会員)、サポーターズクラブ、1975年より続く日本フィルハーモニー協会、といった様々な会員制度によるご支援に加え、「被災地に音楽を」へのご寄付、熊本地震の被災者支援のためのご寄付もいただきました。

<企業・団体ご支援>

企業法人・団体の皆様からは、「特別会員」「九州特別会員」(いずれも寄付会員)をはじめ、継続的なご寄付をいただくとともに、活動全般に対する新たなご寄付も増えております。

また、演奏会等の事業では、東京定期演奏会をはじめとする主催演奏会への協賛(冠協賛、広告協賛)の他、「被災地に音楽を」に対するご支援をいただきました。

2017年度協賛企業ご芳名
株式会社ウテナ／エレコム株式会社／株式会社カインドウェア／鹿島建設株式会社／社会医療法人 河北医療財団 河北総合病院／株式会社京王設備サービス／京王電鉄株式会社／株式会社興建社／昭和シェル石油株式会社／大栄不動産株式会社／株式会社チャイルド社／千代田化工建設株式会社／株式会社ティーガイア／東洋時計株式会社／株式会社日清製粉グループ本社／根本特殊化学株式会社／パイオニア株式会社／ハウス食品グループ本社株式会社／非破壊検査株式会社／株式会社フジテレビジョン／丸美屋食品工業株式会社／三井不動産株式会社／三菱製紙株式会社／三菱UFJニコス株式会社／武蔵商事株式会社／株式会社ヤクルト本社／株式会社リョーサン／ローム株式会社

<補助金・助成金・事業委託／共催>

2017年度も「文化庁文化芸術振興費補助金(トップレベルの舞台芸術創造事業)」対象団体として採択され、東京定期演奏会、横浜定期演奏会に補助金をいただきました。この他、民間助成団体からも多大な助成をいただきました。

2017年度補助・助成ご芳名
<公的補助>文化庁「劇場・音楽堂等活性化事業(劇場・音楽堂等間ネットワーク構築支援事業)」 日本芸術文化振興会「文化庁文化芸術振興費補助金(トップレベルの舞台芸術創造事業)」
<民間助成>(50音順)公益財団法人朝日新聞文化財団／公益財団法人アフィニス文化財団／公益財団法人花王芸術・科学財団／公益財団法人三菱UFJ信託芸術文化財団／公益財団法人ローム ミュージック ファンデーション
<事業委託／共催>文化庁「文化芸術による子供の育成事業」(委託)／文化庁「戦略的芸術文化創造推進事業」(委託)

<CD・オリジナルグッズ販売収入>

コンサート会場にご来場いただけない方々にも演奏を届けるために、CD等の録音物の制作と販売、普及事業を行いました。また多くの方々とのコミュニケーションを拡げるため、演奏会場内外での関連グッズの販売を行い、公演の余韻を楽しんでいただきました。他社との提携によるCD等リリース：日本フィル・レーベル以外でも、他社との提携により積極的にCDをリリース、日本フィルの演奏を内外に発信しました。2017年度はインキネン指揮の「ブラームス：交響曲第1番」がナクソス・ジャパンから発売されました。

Data 会員等 (2018年3月末現在)

定期会員	
東京定期会員(金・土)	1,937席
横浜定期会員	1,503席
法人会員	
協賛企業	28社
特別会員	227社
九州特別会員	114社
個人会員	
パトロネージュ	214名
日本フィル協会	1,221名
サポーターズクラブ	650名

2017年度ご支援総計	46,259,367円
-------------	-------------

※パトロネージュ、日本フィル協会維持会員の皆様のご芳名はp19に掲載致しました。

2017年度ご支援総計	186,079,902円
-------------	--------------

※ご寄付を賜りました企業ご芳名はp17-18に掲載致しました。

2017年度公的助成総計	122,263,000円
--------------	--------------

2017年度民間助成総計	41,100,000円
--------------	-------------

2017年度グッズ販売収入	31,980,514円
---------------	-------------

2017年度の制作アイテム 演奏会のライブ録音CD(日本フィル・レーベル)2点、オリジナルTシャツ、オリジナルカレンダー。自主制作CD、『広上淳一：ペーターベン交響曲第5番、第7番』は、『レコード芸術』において優秀録音盤に選定されました。オリジナルカレンダーは、第69回全国カレンダー展で入選しました。

ご寄付いただいた企業のみなさま

〔東京特別会員、九州特別会員(一部個人含む)、活動へのご寄付他〕

(50音順・敬称略)

株式会社アイム環境ビル管理
アイング株式会社
赤坂維新號
アサヒグループホールディングス株式会社
株式会社アドービジネスコンサルタント
株式会社鮎川電工
株式会社有明新報社
安心な健やか地域づくりをすすめる会
社会福祉法人猪位金福祉会暖家の丘デイサービスセンター
有限会社和泉屋
イーソリューションズ株式会社
株式会社泉商会
株式会社泉放送制作
吉之倉庫
稲畑産業株式会社
井上歯科医院(町田)
今村正人
株式会社インフォーマート
有限会社魚半
株式会社内田洋行
宇部エクシモ株式会社
宇部興産株式会社
株式会社AIT
株式会社エイブル＆パートナーズ
医療法人江上耳鼻咽喉科医院
有限会社江口栄商店
株式会社エヌエフ回路設計ブロック
エムエスティ保険サービス株式会社
株式会社エムジーケイ
株式会社エルイーテック
税理士法人エルビーエー
エレコム株式会社
医療法人社団桜珠会可也病院
株式会社大分銀行
大分県医療生活協同組合
大口酒造株式会社
大隅ミート産業株式会社
株式会社大場造園
株式会社オープンハウス
株式会社岡三証券グループ
株式会社お菓子の香梅
小田急電鉄株式会社
小野塾
公益財団法人オリックス宮内財団
株式会社オンワードホールディングス
花王株式会社
公益社団法人鹿児島共済会南風病院
株式会社鹿児島銀行
鹿児島相互信用金庫
鹿島建設株式会社
鹿島建物総合管理株式会社
鹿島道路株式会社
かどや製油株式会社
株式会社カナック企画
株式会社ガモウ

株式会社カレントセラー
社会医療法人河北医療財団
川北電気工業株式会社
川谷医院
看公税理士法人
医療法人起愛会宇佐病院
医療法人起生会林内科胃腸科病院
北野建設株式会社
キッコーマン株式会社
キヤノン株式会社
株式会社キャリアセンター
キュービー株式会社
医療法人共生会びろうの樹脳神経外科
協和発酵キリン株式会社
キリンホールディングス株式会社
株式会社きんでん
熊本朝日放送株式会社
学校法人熊本壺溪塾学園
株式会社熊本日日新聞社
株式会社熊本放送
医療法人九曜会こが内科こどもクリニック
株式会社九曜社
久留米第一法律事務所
株式会社京王設備サービス
京王電鉄株式会社
京浜急行電鉄株式会社
医療法人敬和会大分岡病院
晃榮住宅株式会社
医療法人弘恵会ヨコクラ病院
株式会社興建社
コーザイ株式会社
株式会社講談社
医療法人社団高邦会高木病院
生活協同組合コープかごしま
生活協同組合コープみやざき
小島新太郎商店
株式会社コバヤシ
医療法人五秀会末永産婦人科麻酔科
医療法人こだま小児科
コンパッソ税理士法人
株式会社コトブキ
株式会社コンサートサービス
株式会社佐賀銀行
薩摩酒造株式会社
佐藤製菓株式会社
三機工業株式会社
山九株式会社
三京物産株式会社
サントリーホールディングス株式会社
三洋貿易株式会社
株式会社慈恵実業
穴倉渉税理士事務所
自然庵
税理士法人柴田＆パートナーズ
澁谷工業株式会社

株式会社じほう
清水建設株式会社
シャボン玉石けん株式会社
株式会社集英社
医療法人秀康会ましきクリニック耳鼻咽喉科
医療法人社団寿量会
医療法人春回会井上病院
松竹株式会社
浄土真宗本願寺派無量山西導寺
医療法人松籟会河畔病院
公益財団法人昭和会今給黎総合病院
昭和シェル石油株式会社
昭和電工ガスプロダクツ株式会社
昭和電工株式会社
ショーボンドホールディングス株式会社
医療法人社団仁愛会中村医院
株式会社進藤木材店
新日鐵住金株式会社
新日鉄興和不動産株式会社
新日本製薬株式会社
新菱冷熱工業株式会社
医療法人信和会
杉山商事株式会社
株式会社SCREENホールディングス
住友商事株式会社
住友ベークライト株式会社
株式会社西武ホールディングス
聖マリア病院臨床研究教育本部
医療法人誠和会
株式会社セフティハウス
税理士法人創研
株式会社総本家黒田家
第一倉庫株式会社
株式会社泰秀
大正製薬株式会社
大成ロテック株式会社
大同生命保険株式会社
大日本除虫菊株式会社
大日本塗料株式会社
大日本塗料株式会社福岡営業所
大隆工業株式会社
大和製罐株式会社
高砂熱学工業株式会社
田川信用金庫
有限会社但馬屋老舗
立花税務会計事務所
田中陸運株式会社
千代田化工建設株式会社
株式会社千代田テクノル
塚本總業株式会社
公認会計士津田久子事務所
株式会社鶴屋百貨店
ディアンドデパートメント株式会社
D&DEPARTMENT FUKUOKA
株式会社ティーガイア

学校法人帝京大学
 TIS株式会社
 THK株式会社
 手島薬品株式会社
 株式会社照国計算センター
 株式会社テレビ朝日
 株式会社テレビ熊本
 株式会社電通
 東亜建設工業株式会社
 株式会社東急コミュニティー
 学校法人東京音楽大学
 東京海上日動火災保険株式会社
 東京ガス株式会社
 東京急行電鉄株式会社
 株式会社東京組
 株式会社東京交通会館
 東京都杉並区
 東京美装興業株式会社
 医療法人藤溪会藤野医院
 東光電気工事株式会社
 医療法人同心会古賀総合病院
 株式会社東北新社
 東洋熱工業株式会社
 戸田建設株式会社
 トヨタカラー鹿児島株式会社
 トヨタ自動車株式会社
 株式会社トヨタレンタリース鹿児島
 株式会社永田音響設計
 株式会社永谷園ホールディングス
 医療法人なごみ会酒井医院
 名古屋ビルサービス株式会社
 南洲税理士法人
 日新製鋼株式会社
 株式会社ニフコ
 日本技術貿易株式会社
 日本精工株式会社
 日本電子株式会社
 日本パーカライジング株式会社
 株式会社日本マイクロニクス
 根本特殊化学株式会社
 野村ホールディングス株式会社
 パイオニア株式会社
 ハウス食品グループ本社株式会社
 株式会社白雲社
 株式会社博報堂
 はざま神経内科・内科医院
 ハナマルキ株式会社
 パンパシフィック・カップー株式会社
 阪和興業株式会社
 東日本住宅株式会社
 非破壊検査株式会社
 ひびき・パース・アドバイザーズ
 税理士法人ひまわりFC
 ひまわり音楽ホール
 平田宗興
 医療法人深川皮膚科
 公益社団法人福岡医療団
 福岡県退職教職員協会田川支会
 社団福祉法人福岡コロニー
 富国生命保険相互会社
 富士急行株式会社

富士テレコム株式会社
株式会社フジテレビジョン
一般財団法人藤本育英財団
双葉電子工業株式会社
古内亀治朗商店株式会社
古川康
株式会社プレースホーム
フンドーキン醤油株式会社
株式会社別大興産
豊和商事有限会社
ホーチキ株式会社
株式会社ポーラ・オルビスホールディングス
保険ネットワーク有限会社
ホッカホールディングス株式会社
株式会社ポニーキャニオン
ホンダカーズ佐賀株式会社
本田技研工業株式会社
本坊松栄株式会社
前田憲徳
松本健司税理士事務所
馬服一生
株式会社丸井グループ
株式会社丸の内よろず
丸美屋食品工業株式会社
株式会社みちのく銀行
三井情報株式会社
株式会社三井住友銀行
三井製糖株式会社
三井石油開発株式会社
三井倉庫ホールディングス株式会社
三井物産株式会社
三井物産スチール株式会社
三井不動産株式会社
株式会社三越伊勢丹ホールディングス
三菱オートリース株式会社
三菱ガス化学株式会社
三菱地所株式会社
三菱重工業株式会社
三菱倉庫株式会社
株式会社三菱UFJ銀行
三菱UFJ証券ホールディングス株式会社
三菱UFJ信託銀行株式会社
三菱UFJ国際投信株式会社
三菱UFJニコス株式会社
三菱UFJリース株式会社
株式会社南日本放送
医療法人産科・婦人科宮原クリニック
武蔵商事株式会社
明治安田生命保険相互会社
社会福祉法人明徹会
株式会社明和住販流通センター
メッドサポートシステムズ株式会社
株式会社メディアグラフィックス
株式会社メフォス
株式会社メルコホールディングス
森社会保険労務士事務所
森永製菓株式会社
株式会社ヤクルト本社
八代綜合法律事務所
ヤマト運輸株式会社
社会福祉法人やまと医正会

株式会社UACJ
ユウキフーズシステム株式会社
郵船ロジスティクス株式会社
医療法人友和会
有限会社幸組
株式会社夢織
横河電機株式会社
米持建設株式会社
株式会社リガク
株式会社リョーサン
株式会社リンレイ
社会福祉法人麗風会
税理士法人れいめい
株式会社LEOC
レンゴー株式会社
ローム株式会社
社会福祉法人若楠
渡辺医院

他 匿名

パトロネージュ[個人寄付]会員ご芳名

(2018年6月20日現在・50音順・敬称略)

会田 英子	東京都	小野 敏夫	東京都	澤田 初恵	東京都
会田 雅美	東京都	小野寺けい子	岩手県	島田 精一	東京都
青井 浩	東京都	小野寺健一	岩手県	島田 敏生	神奈川県
浅野 純次	埼玉県	小幡 尚孝	東京都	島田 晴雄	東京都
芦田 渚	東京都	折田 正樹	東京都	清水 利夫	東京都
阿部 俊彰	神奈川県	賀澤 裕三	福島県	清水 幸雄	千葉県
荒崎康一郎	東京都	片貝 英重	東京都	下河辺美知子	東京都
飯田 恵司	東京都	片柳 彰	東京都	下田 英一	東京都
家近 茂	東京都	片山 英二	東京都	新庄 茂方	大阪府
五十嵐重雄	東京都	加藤 壹康	静岡県	杉山 浩明	東京都
伊佐山建志	東京都	加藤 丈夫	東京都	鈴木 庸夫	東京都
石井 榮	東京都	加藤 信弘	東京都	鈴木 祐二	東京都
石澤 卓志	千葉県	加藤ひろみ	千葉県	関 兼英	東京都
石田 正邦	埼玉県	加藤 洋一	千葉県	妹尾 絲子	東京都
石塚 邦雄	東京都	金子 悦子	東京都	宗 神子	大分県
石橋 雄三	神奈川県	金子 修	埼玉県	染野 郁郎	東京都
伊藤 貴博	東京都	金子 肇	千葉県	染野 宗子	東京都
伊藤 智夫	東京都	上條 真夫	東京都	田浦 直美	千葉県
大塚 静衛	東京都	上條 淑子	東京都	高井 延幸	神奈川県
井上 俊信	埼玉県	川瀬 範子	東京都	高木 宏忠	東京都
井上 直人	東京都	河北 恵美	東京都	高田 信子	東京都
井上 浩良	東京都	河北 博文	東京都	高橋 信喜	東京都
岩田 達明	静岡県	菊池 和美	東京都	竹下 道夫	東京都
上田 進	埼玉県	喜多莖久江	東京都	竹中 富知男	東京都
上田 紘生	神奈川県	北野かつい	東京都	田中 稀一郎	東京都
上野悦子・陽子	東京都	北村 篤嗣	埼玉県	田中 宏征	兵庫県
臼井 潤	東京都	北村 裕	神奈川県	田中 将介	東京都
内村 恒彦	神奈川県	草刈 隆郎	東京都	谷口 均	埼玉県
江口 和廣	東京都	熊谷 朝子	東京都	田村 浩章	東京都
江口 麗子	東京都	栗原真知子	埼玉県	塚本 和久	東京都
遠藤 滋	神奈川県	畔柳 信雄	東京都	津田 義久	東京都
大島 剛	埼玉県	小林こずえ	東京都	角田 肇	東京都
太田 五郎	神奈川県	小林 裕美	東京都	積田 孝一	東京都
太田 達男	千葉県	五味 康昌	神奈川県	d日本フィルの会	
大塚 宣夫	東京都	コンサート夢	埼玉県	東京フロイド合唱団	東京都
大藤 裕康	埼玉県	酒井 和夫	神奈川県	徳田 俊一	東京都
大森 京太	東京都	酒井 重人	東京都	徳田 陽一	東京都
岡本 晋	東京都	桜田 和子	千葉県	外山 雄三	東京都
奥林 群司	東京都	佐藤 武男	東京都	中尾 誠利	神奈川県
奥山 敦子	東京都	佐藤 正昭	東京都	ナガオカケンメイ	東京都
小山内清孝	東京都	座間 淑美	神奈川県	中澤 守正	神奈川県
尾澤 弘久	神奈川県	佐本 光庸	神奈川県		

中島 奈穂	東京都	星 桂太郎	東京都
中島美知子	東京都	堀 丈二	愛知県
長瀬 雅則	東京都	本田 博	熊本県
仲田 喜義	東京都	前田 耿史	神奈川県
永野 明宏	千葉県	前田圭一郎	千葉県
中村 公一	東京都	牧野 澄夫	東京都
中村 禎良	東京都	松尾	東京都
中本 逸郎	東京都	松本 譲	東京都
那須 雄治	東京都	松本 信義	東京都
棗 年紀・綾	東京都	三木恵美子	神奈川県
西澤 豊	東京都	三木 繁光	東京都
西村 永湖	神奈川県	水島 慶和	神奈川県
西村 敬子	京都府	溝上 靖	東京都
西村 醇子	神奈川県	峯島 茂之	東京都
西村 信勝	神奈川県	村上 純子	埼玉県
日本フィルハーモニー 協会所沢支部	埼玉県	村上 眞澄	千葉県
		元永 徹司	神奈川県
		森 宏之	神奈川県
沼口 元彦	東京都	八木 一郎	山梨県
根本 直之	千葉県	矢倉 俊紀	東京都
箱崎 一彦	千葉県	八代 元行	東京都
橘倉 宏行	埼玉県	柳田 淑	神奈川県
蓮見 正純	東京都	柳瀬 友則	神奈川県
長谷川健夫	東京都	谷野 剛	東京都
羽田 洋子	神奈川県	山形 政弘	東京都
華丘 裕子	東京都	山越 章弘	長野県
浜村 亘	静岡県	山下 芳広	北海道
原 俊	千葉県	山田規矩子	埼玉県
針谷 博史	東京都	山田 匡通	東京都
平井 邦子	神奈川県	山田百合子	東京都
平井 嘉朗	東京都	山本 高稔	東京都
平田 邦夫	神奈川県	油井 直次	東京都
平林 直哉	東京都	吉川 美保	東京都
平松 恒治	東京都	若井 恒雄	東京都
広瀬 勝貞	大分県	渡辺 敦郎	東京都
深沢 茂実	神奈川県	渡辺 和子	東京都
福澤 利夫	千葉県	渡邊規久雄	東京都
福田 昭夫	東京都	渡辺 進	東京都
藤井 裕一	東京都	渡邊 直	東京都
藤沢 薫	東京都	渡辺 康匡	東京都
藤本由紀子	東京都	M.K.	
古瀬 明弘	東京都		匿名37名

日本フィルハーモニー協会 維持会員ご芳名

(2018年6月20日現在・50音順・敬称略)

青木	孝	小田倉	正	小島	鈴枝
青木	隆	小野澤	克巳	込戸	正人
赤星	昭生	小見と志子		斎木	典子
赤星	弥生	梶	一郎	坂本	博志
荒井	隆志	片崎	和枝	相良	幸男
有田	正治	柏	薫	佐藤	雅道
石澤	卓志	加藤	明	佐藤	安雄
石田	尚身	金本	順子	澤口佳	乃子
石田	英雄	神谷	薫	下山	泰彦
伊藤	茂雄	河原田	和夫	菅原	章文
伊藤	正明	岸田	正博	鈴木	重澄
岩崎	貞明	北宮千恵子		鈴木	重行
海野	尚久	木村	繁	鈴木	富美
大塚	宏二	倉田	茂	住江	慶子
岡登	弘志	蔵貫	義朗	高田	昌樹

高津 正徳
武井 新
武田 幸子
多田 栄一
田中 諄
坪井 憲治
テレビ山口(株)事業部長
東保裕の介
富澤 裕
富田 節子
永井 福枝
長沢 光子
永田 康
永津 仁

中山 泰子	松井 務
野田 孝	皆川 文弘
野中 和行	三好 敦生
羽生 賢次	民放労連関東地方連合会
早川征一郎	柳瀬 友則
広田 孝志	山縣 博
深沢 茂実	山下 芳広
藤井 行雄	横瀬 浩
藤川 寿彦	渡辺 勝次
藤野 一郎	渡辺 政則

楽団紹介

- ◆ 創立指揮者

渡邊 暁雄

◆ 桂冠名誉指揮者

小林 研一郎

◆ 名誉指揮者

ルカーチ・エルヴィン

◆ 名誉指揮者

ジェームズ・ロッホラン

◆ 客員首席指揮者

ネーメ・ヤルヴィ
- ◆ 首席指揮者

ピエタリ・インキネン

◆ 桂冠指揮者 兼 芸術顧問

アレクサンドル・ラザレフ

◆ 正指揮者

山田 和樹

◆ ミュージック・パートナー

西本 智実

ソロ・コンサート マスター

木野 雅之



©Kazuya Akashi
Akashi

ソロ・コンサート マスター

扇谷 泰朋



Aoki Taiga

アシスタント・コンサートマスター

千葉 清加



千葉 清加

第1ヴァイオリン

太田 麻衣



Maeda

第1ヴァイオリン

九鬼 明子



Aki Kuiki

第1ヴァイオリン

斎藤 千種



Chikazu Saito

第1ヴァイオリン

齋藤 政和



斎藤 政和

第1ヴァイオリン

佐々木 裕司



佐々木 裕司

第1ヴァイオリン

武田 桃子



武田 桃子

第1ヴァイオリン

竹歳 夏鈴



Takekida Natsuko

第1ヴァイオリン

田村 昭博



田村 昭博

第1ヴァイオリン

中谷 郁子



Ikuko Nakatani

第1ヴァイオリン

西村 優子



西村 優子

第1ヴァイオリン

平井 幸子



Sachiko Hirai

第1ヴァイオリン

本田 純一



Junichi Honda

第1ヴァイオリン

松本 克巳



Matsumoto Katsushi

第2ヴァイオリン

遠藤 直子



Naoko Endo

第2ヴァイオリン

大貫 聖子



Seiko Oikawa

第2ヴァイオリン

加藤 祐一



Kato Yūichi

第2ヴァイオリン

神尾 あずさ



Azusa Kamio

第2ヴァイオリン

川口 貴



川口 貴

第2ヴァイオリン

榎 渚



榎 渚

第2ヴァイオリン

佐藤 駿一郎



Sato Shun-ichirō

第2ヴァイオリン

竹内 弦



Gen Takeuchi

第2ヴァイオリン

豊田 早織



Violin
豊田 早織

第2ヴァイオリン

町田 匡



町田 匡

第2ヴァイオリン

山田 千秋



Chitose Yamada

ヴィオラ

小俣 由佳



Viola
小俣 由佳

ヴィオラ

小池 拓



Koike Hiroshi

ヴィオラ

小中澤 基道



小中澤 基道

ヴィオラ

高橋 智史



S. TAKAHASHI

ヴィオラ

中川 裕美子



中川 裕美子

ヴィオラ

中溝 とも子



Tomoko Nakaguchi

ヴィオラ

松澤 稚奈



Wakana M. viola

ソロ・チェロ

菊地 知也



菊地 知也

ソロ・チェロ

辻本 玲



辻本 玲

チェロ

石崎 美雨



石崎 美雨

チェロ

伊堂寺 聡



伊堂寺 聡

チェロ

江原 望



Ehara noz

チェロ

大澤 哲弥



大澤 哲弥

チェロ

久保 公人



Kubo

チェロ

山田 智樹



山田 智樹

日本フィルの公益活動を応援してください

皆様のより一層のご支援をお願い申し上げます。

1 コンサートを聴いて応援する

定期会員



東京／横浜定期会員になって日本フィルを応援する
サントリーホール、横浜みなとみらいホールで聴く贅沢な時間。S席年間会員(全10回／48,000円)。1回券10回購入と比べると約40%お得。

サポーターズクラブ



年間1万円／1口でコンサートを楽しみ、日本フィルを応援する
招待券の特典／コンサート会場のボランティアへの参加
<https://www.facebook.com/JpoSupportersClub>

年会費(1口)… 1万円

2 個人の寄付で応援する

パトロネージュ〔個人寄付会員〕



パトロンになって日本フィルを応援する
芸術家の支持者、後援者として共に音楽史を支えてきたのが「パトロン」です。
プログラム誌へのご芳名の掲載／会員種類によって各種特典有り

寄付(1口・年額)… 3万円／5万円／12万円／20万円／
50万円／100万円

* 税制上の優遇措置を受けることができます。

日本フィルハーモニー協会

「協会合唱団」や地域コンサート活動への参加で日本フィルを応援する

寄付(1口・年額)… 一般会員5千円／維持会員2万円／他

* 金額により税制上の優遇措置を受けることができます。

オンライン募金



クレジットカードで簡単に募金できます。
<http://www.japanphil.or.jp/support/fundraising/index.html>

* 2019年4月に開催する「第6回ヨーロッパ公演2019」の成功に向けての募金を
受け付けております(受付期間2019年3月迄)。

遺 贈



遺贈によるご寄付も承っております。
遺言書の作成、手続きなどは、提携(信託)銀行をご紹介致します。
日本フィルハーモニー交響楽団総務部へご相談ください。

3 法人の寄付・協賛で応援する

法人寄付(特別会員)〔寄付会員〕

特別会員になって日本フィルを応援する

年会費36万円(月3万円)／1口より

協 賛

コンサートへの冠協賛、広告協賛等で日本フィルを応援する

活動支援寄付

活動全般・特定の事業に対する寄付で日本フィルを応援する

* 法人寄付は損金算入の枠拡大を利用できます。

個人の寄付は税額控除が受けられます！

- 公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団への寄付金は、税制上、税額控除の優遇措置が受けられます。
 - 東京都・杉並区にお住まいの方は個人住民税の寄付金による控除の対象となります。
 - 相続により取得した財産の一部または全部を寄付した場合、寄付した財産に相続税が課税されません。
- * 詳しくは国税庁のサイトをご覧ください。

・ 資料請求 ・

公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団

TEL: 03-5378-5911 (平日10時～17時) FAX: 03-5378-6161 URL: www.japanphil.or.jp

E-mail: office@japanphil.or.jp

ご希望の資料、お客様のお名前、ご住所、お電話番号をお送りください。